

**令和３年度**

**実績報告書**

**まちづくり**

**応援補助金**

|  |  |
| --- | --- |
| １　団　体　名 | 庄原駅周辺地区まちづくり協議会 |
| ２　事　業　名 | 備後庄原駅に人が集まる仕組みづくり  SHOBARA　STALL　SHOP～庄原屋台プロジェクト～ |
| ３　事　業　費 | 498,880円（うち補助金：399,000円,自主財源：99,880円） |
| ４　事 業 内 容 |  |
| 庄原市の交通結節点として多くの人が利用する備後庄原駅周辺には店舗が少なく、利用者や近隣生活者が不便を感じていることから、地元事業者や個人が気軽に野菜やスイーツなどを駅前で販売し、地域活性化を図ることを目的として、屋台の製作を行った。  庄原市内の業者に『庄原市オリジナル屋台』を設計、製作してもらい、令和３年10月14日に屋台づくりワークショップを開催。ワークショップには、県大生をはじめ14名が参加し、屋台の組み立て、屋台で何ができるか、何を売りたいかを話し合った。（屋台4台作製）  【利用実績】   1. 駅前フェスタ（10月23日）　②カープ号運行イベント（11月28日）←協議会主催・共催イベント   また、有料で貸出しを行った。（令和３年度利用実績：２件） | |
| ５　波 及 効 果 |  |
| ・ワークショップを通じ、オリジナル屋台の改善点や販売品の検討、利用方法などを話し合い、屋台の可能性を広げることができた。  　・4台の屋台を並べることで、駅前に統一感があるかわいらしい空間を演出することができた。  　・既存のイベント（駅前フェスタ）だけではなく、駅を利用したイベントでの屋台利用が増加し、屋台の存在を周知できた。  　・ワークショップ参加者による自主的なイベント開催への足がかりとなった。  　・屋台を貸出し備品とすることで、協議会継続のための資金確保に繋がっている。 | |
| ６　活 動 写 真 |  |
| ↑（上）駅前フェスタ・（下）カープ号運行      ↑屋台づくりワークショップ | |

|  |  |
| --- | --- |
| １　団　体　名 | 庄原を想う会 |
| ２　事　業　名 | 地域について気軽に話して、仲間の輪を広げよう会 |
| ３　事　業　費 | 202,638円（うち補助金：125,000円,自主財源：31,638円,事業収入：46,000円） |
| ４　事 業 内 容 |  |
| 令和3年度は、地域における住民ネットワーク形成を目指して、地域に関する様々なテーマについての講演と小グループでの話し合いを行った。今回、「まちづくり補助金」を活用することで、普段は接する機会が少ない市外、県外からの講師を招聘することができた。以下に今期に取り上げたテーマと講師を示す。  第1回目：「中山間地域で豊かな生活を過ごすには」講師：辻駒健二氏（高宮町川根自治振興会会長）  第2回目：「地域の宝発見で、元気な地域づくりを」講師：宗清禮吉氏（NPO山口バイオマス利用研究会副理事長）第3回目：「食の安心・安全のための森の保全について」講師：栁井清治氏（石川県立大学教授）  第4回目：「地産地消、自産自消で健康な毎日を」講師：元廣　修氏（三次ワイナリー前代表取締役社長）  第5回目：「Iターンで地域活性化を。有機農法で安全な果樹づくり」講師：松浦二郎氏（大崎上島の花の里・二郎さん農園園長）。  今期の活動記録として、「庄原を想う会令和3年度活動報告書」を年度末に作成し、多くの市民に配布して  「庄原を想う会」の活動への理解とネットワークへの参加をお願いした。 | |
| ５　波 及 効 果 |  |
| 令和3年度の前半は、コロナ禍のため、当会の「地域について気軽に話して、仲間の輪を広げよう会」の開催を中心とした活動ができなかった。その後、10月以降に会の開催が可能となり、予定していた各テーマで講演と話し合いを行った。本年度は庄原市の地域資源を発見するための自然や農業に関することを基本テーマに掲げ、計5回実施できた。会を開催することは、話し合いの「場」の提供でもあり、参加者が対等の立場で気軽に意見交換ができた。その結果、回を重ねるごとにリピーターも次第に増え、住民間のネットワークが有機的に広がった。すなわち、各参加者が演者を含めて、小グループで同一テーマにつき話し合うことで、他者の視点（意見）も理解し、受け入れられるようになったと考える。課題である広報は、「庄原を想う会」会員が手分けして、公的機関や知り合いにチラシとポスターを配布、さらに連絡先の分かっている方々には会への参加案内をハガキやメールで通知したが、SNSのさらなる活用を検討中である。私共の「庄原を想う会」の取り組みは、住みやすい地域にするための住民間の有機的ネットワーク形成の場を目指し、スタートしたばかりである。令和3年度の助走の時期を経て、令和4年度も継続的な活動を実直に取り組んでおり、その過程で、徐々にではあるが、参加者が庄原をよりよく知り、住みやすい町にするための仲間づくりの輪がスタートできたとの感触を得られた。 | |
| ６　活 動 写 真 | 第1回目の記念写真  令和3年　10月30日 |
| 第2回目の小グループでの話し合い風景  令和3年11月27日      　第3回目の講演後の質疑応答風景　　　　　　　　　　　　　　　第4回目の記念写真  　　令和3年12月19日　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　令和4年2月26日    第5回目の講演会風景  令和4年3月27日 | |